藤崎の防災訓練に参加しました（2026/11/4）

テーマ：防災訓練、包括連携協定、インクルーシブ防災
会　場：藤崎（仙台市青葉区一番町三丁目２の 17）

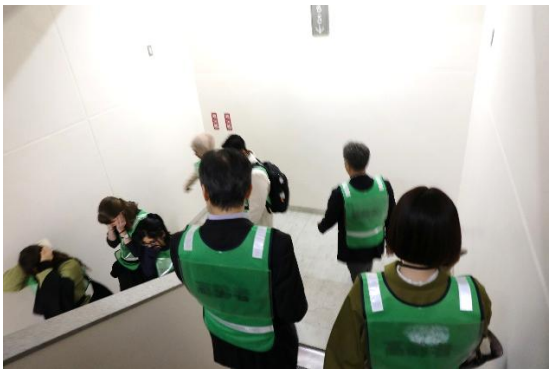
2026 年 11 月 4 日、仙台市青葉区一番町の百貨店「藤崎」で、地震や火災を想定した防災訓練が行われました。藤崎と東北大学は、多様性豊かで魅力的な国際都市・仙台の実現などを目的とした包括連携協定を締結していて、藤崎の防災訓練には一昨年から災害科学国際研究所の研究者や留学生も参加しています。

今回の訓練には、サッパシー アナワット准教授（津波工学研究分野）とゲルスタ ユリア准教授（災害メモリー学分野）をはじめ約 600 人が参加し、宮城県沖を震源とした震度 6 弱の地震が発生して火災も起きたとの想定で行われました。訓練の内容は当研究所の研究者が監修し、今回は今年 7 月 28 日に発生した「令和 8 年熊本地震」の教訓を踏まえ、館内の安全確認が完了してから再入館する流れも盛り込みました。

訓練は開店前の午前９時半から実施されました。緊急地震速報が館内に流れると、従業員は日本語に加え「Protect your head」「Stay calm」といった英語を交えて買い物客へ身の安全を確保するよう呼びかけ、店外へ速やかに誘導しました。また、本館６階で火災が発生したとの想定で、消火器や屋内消火栓設備を用いた初期消火訓練も行いました。店外に避難した参加者は、防災センターから入館許可の連絡を受けて再入館し、15 分ほどで訓練は終了しました。

藤崎では、防災訓練を年に２回実施しています。防災庁発足を機に、防災意識の向上がより一層期待される中、当研究所では今後も訓練への参加や監修を通じて、安心・安全な街づくりに貢献してまいります。


緊急地震速報が流れて身の安全を確保


階段を使って店外へ避難


初期消火訓練も実施


店外で再入館の許可を待つ参加者

文責：佐藤 正則（広報室）